

【様式1】

令和5年度 授業改善推進プラン

東久留米市立東中学校 第1学年

教科	学力に関する各調査に基づく生徒の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)	次年度に向けた 自己評価 (A・B・C)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文学的文章の心情の読み取り・情景の読み取りなどに課題が見られる生徒は1割程度である。 説明的文章の展開を捉えることに課題が見られる生徒は1割程度である。 漢字を書いたり、読んだりすることに課題が見られる生徒は1割程度である。 教育漢字の読み書きにも課題のある生徒が1割程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文学的文章では、ワークシートを基に、心情を表す表現を確認し、その表現に着目しながら理解させていく。 説明的文章の展開をワークシートを基に、段落やキーワードを確かめながら理解させていく。 漢字テストを週1回程度行い、新出漢字の7割程度の定着を図る。 教育漢字のテストを学期2回程度行い、意欲を持たせ、8割程度の定着を図る。 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に必要な言葉の意味を理解し、その言葉を使って自分の考えを説明することに課題が見られる生徒は4割程度である。 課題解決に向けて、分かっていることと求めることを明らかにし、今まで学んだ知識や技能を基に、筋道立てて考えることに課題が見られる生徒は5割程度である。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題集等で問題を解く際に、解決に必要な数学的用語の意味やどの公式を使ったかなどをしっかりと書かせながら定着を図る。目標値を70%以上とする。 解決に必要な知識を確認しながら、結論に至るために、最終的に何が分かれば数学的に解決できるかを発表させる。分かっていることと求めることを明らかにできる生徒を70%以上とする。 思考の過程が分かるように、何を基にして解決したかをノートに書かせる。思考の過程を、発表によって共有する時間を増やす。学んだ知識を基にして理由を示しながら表現できる生徒を70%以上とする。 	
(外国語) 英語	<ul style="list-style-type: none"> 単語の文字・発音・意味を結び付けて覚えることに課題が見られるために、読むことに課題が見られる生徒は1割程度である。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内で新出語句の練習をする際に、全体で意味や発音を確認した後、個々にも発音させるなどして確認する時間を設ける。また、教科書の音読に関しては単元ごとに暗唱チェックを行い、何度も声に出して繰り返し読む機会をつくる。読むことに慣れていくことで自信につなげていきたい。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 自然に比較的恵まれている環境にもかかわらず興味を示さない生徒が1割程度見られる。身近な自然環境等について観察や実験をとおして分かったこと、結果をまとめ、相手に伝えることに課題が見られる生徒は5～6割程度である。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元にかかわりながら生活や地域に関係のある課題や視聴覚関係及び科学的行事等を取り上げて、関心を持たせ取り組めるよう、学期に2～3回程度レポートなどを強化したい。また、基礎的知識や数学的に問題のある生徒には問題集などの課題等を定期考查前などに与え、身に付くよう指導する。 	

【様式1】

令和5年度 授業改善推進プラン

東久留米市立東中学校 第2学年

教科	学力に関する各調査に基づく生徒の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)	次年度に向けた 自己評価 (A・B・C)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字テストで満点を取れる生徒が1割程度であり、漢字を書いたり、読んだりすることに課題が見られる。 説明文の論理の展開や、物語文の情景・心情を読み取ることに課題が見られる生徒が2割程度である。また、読み取った内容を表現し他者に伝えることにも課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> テスト前に確認の時間を5分間とり、ワークで間違えた問題や画数の多い漢字等を復習させる。また、テスト後に間違えた漢字を訂正する時間を設け、定着できるよう促す。 教材ごとに①初読の感想②作品の振り返りを行い、自分の意見を表出する機会を増やす。また、クラスメイトと共有し、幅広い考えをもてるようにする。 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> 習った当初にできなかった問題に関して、繰り返し練習をして、正解になるまで粘り強く取り組むことに課題が見られる。 問題文から課題解決に必要な内容を取り出し、数学的に処理・表現することに課題が見られる。 課題解決に向けて、今まで学んだ知識や技能を根拠にしなが、筋道立てて考えることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のはじめに3分間ドリルに取り組みせ、既習事項の復習を行う。特に計算問題では正解率80%以上を目標とする。 文章の大事なポイントに下線を引かせるなどして、問題から必要な情報を読み取り、自力で図や表にまとめられるようにする。目標値は70%以上。 解決に必要な知識を確認しながら、何が分かれば数学的に処理できるかをノートに書かせるようにする。目標値は70%以上。 	
(外国語) 英語	<ul style="list-style-type: none"> 英語に興味を示す生徒がいる一方で、基礎的な単語や文法事項の習得に課題が見られる生徒が2割程度である。 ペア等で会話活動をする際に、自分の気持ちや考えを英語で表現することに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 月に2回程度単語テストを実施し、7割以上の単語が書けることを目標にする。基礎的な文法事項においても、授業や宿題でワークやプリントを用いて身に付くよう指導する。 スピーキング活動を常活動のように積極的に取り入れ、さまざまな表現に触れ、自信を持って英語で会話ができるようにする。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 自然界に興味関心を持つ生徒は多いが、科学的に探究する活動を通して、明らかとなった結果を基に自分の考えを表現することに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業開始時に前回の授業ノートを確認する時間を取り、今までに学習してきた内容の復習を行う。 単元ごとの試験では70点以上取れる生徒が70%以上になることを目指す。 	

【様式1】

令和5年度 授業改善推進プラン

東久留米市立東中学校 第3学年

教科	学力に関する各調査に基づく生徒の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)	次年度に向けた 自己評価 (A・B・C)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 目的や場面に応じて話題を決め、話し合うための材料を収集・整理する力のある生徒が9割近くいる。一方で、読み手の立場に立って叙述の仕方を検討し、文章を整えることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループで発表を行う前に、自分が書いた文章を読み返す時間を必ず取る。また、教材ごとにグループで推敲する機会を設け、読み手としてわかりにくい表現はどのようなものかを理解させる。7割以上の生徒がゆらぎのない文章を書けるようになることを目指す。 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向けて、分かっていることと求めることを明らかにし、今まで学んだ知識や技能を基に、筋道立てて考えることに課題が見られる生徒は5割程度である。 	<ul style="list-style-type: none"> 解決に必要な知識を確認しながら、結論に至るために、最終的に何が分かれば数学的に解決できるかを発表させる。分かっていることと求めることを明らかにできる生徒を70%以上とする。 思考の過程が分かるように、何を基にして解決したかをノートに書かせる。思考の過程を、発表によって共有する時間を増やす。学んだ知識を基にして理由を示しながら表現できる生徒を70%以上とする。 	
(英語) 外国語	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な話題について、目的をもって必要な情報を聞き取ることができる生徒は8割に達した。一方で、社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことについて課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとに、「読むこと」と「書くこと」を連動させた学習活動を設定する。読んだことをもとに自分の意見を書いたり、他の生徒と共有したりして、書く力を高め、7割以上の生徒が自分の意見を表現できるようにする。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 自然界に興味を持つ生徒は多いが、科学的に探究する活動を通して、科学的な思考力等を発揮して自己の考えをまとめ表現することに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎知識などをドリルなどで定着を図り、理科の異なる単元、学習内容との関連でも科学的に考えられるようにする。単元ごとの確認テストでは70点以上の取れる生徒が70%以上になることを目指す。 	